

中国四国ブロックにおけるHIV医療体制の整備に関する研究

研究分担者 藤井 輝久

広島大学病院 輸血部 准教授、エイズ医療対策室 室長

研究要旨

過去2年間の中国四国内の感染者・患者動向については、他ブロック同様新規感染者の報告数は増えているが、新規患者報告数は減少に転じている。しかし日本全体の報告に占める本ブロックの割合は漸増している。各職種別の研修会について参加者の感想はおおむね好評であるが、職種によっては参加がない県もあった。これは交通の便や開催期日で都合が悪い、患者を実際に診療する機会がないのでニーズがない、などの事情もあると思われるが、参加募集を拠点病院のみならず、非拠点病院や診療所等にも拡げることで、参加人数は維持～増加している。情報発信については、この2年で3つの新たな小冊子を作成した上、過去発行している4つの小冊子を計6回改訂した。特に2014年度作成の小冊子は、高齢化する患者のニーズに合うものであり、ホームページや研修会で周知するとともに、診療現場でも活用するべきと思われる。

A. 研究目的

本研究の目的は中国・四国地方のHIV感染症の医療体制の整備のために、ブロック内のHIV感染者/エイズ患者の動向を調査すると共に、診療や教育支援に役立つために、研修会の開催や教育資料の開発を行うことにある。またそれらを通じて、ケア提供者の資質の向上を図ることである。

B. 研究方法

臨床疫学的データについては、厚生労働省エイズ動向委員会による「エイズ発生動向」(<http://api-net.jfap.or.jp/index.html>)を参考に解析した。また研修会の内容や参加については、過去2年間の参加者名簿や配付資料を集積・解析を行った。

個人情報と思われる項目（氏名、市町村レベルでの住所、生年月日等）を除き、解析した。これをもって倫理面への配慮とした。

C. 研究結果

[1] 中国四国の患者動向

中国四国地方の2013年9月末時点におけるHIV/AIDS累積報告数過去5年の推移を【図1】に示した。2013年9月末時点のブロック内のHIV/AIDS累積報告数は906人であり、日本全体の3.75%を占めており、その割合は微増し続けている（2012年は3.6%）。また過去2年間の新規HIV感染者とエイズ患者の報告数の人口10万人対で見た比率の変化を【図2】に示す。2年連続で感染者の新規報告がない島根を除き、他県では比率が増加していた。逆に減少したのは、愛媛だけだった。患者の新規報告は、広島、香川が高水準を推移していた。

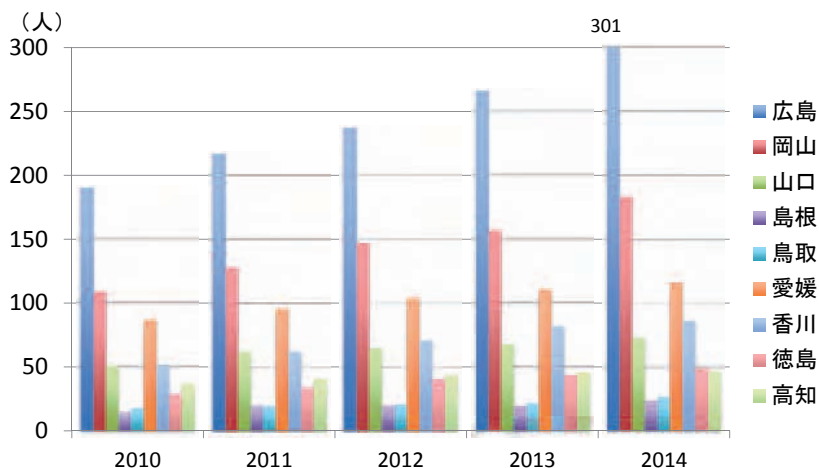
[2] 研修会・会議の参加について

過去2年間における医師向け研修会の参加施設と参加人数を【表1】に示す。医師向け研修会は、2012年度まで卒後10年以内の比較的若手の医師を対象としていたが、内容は初心者向けを継続するものの、2013年度からは、卒後年数にこだわらず「HIV診療に携わる又はその予定のある医師」を対象を広げ、さらに日本エイズ学会認定医の取得・更

新ポイントにもなることを、文面に入れて募集をかけた。1年目の2013年7月開催の研修は12人の参加があった。しかし、2014年11月に行った2年目は8人の参加に留まった。徳島、高知からの参加者は2年間0であった。また2010年～2012年の3年間に14人の参加のあった岡山は、この2年間で1人の参加

に留まった。逆に2010年からの3年間で0であった鳥取から1人参加があり、島根からの参加者も増えた。

過去2年間における看護師向け研修会（初心者コース）の参加施設と参加人数を【表2】に示す。医師と違い、表中赤字のとおり全県の中核拠点病院か



厚生労働省エイズ動向委員会資料より
それぞれの年の11月発表分まで

図1 中国四国地方のHIV/AIDS患者累計数の推移

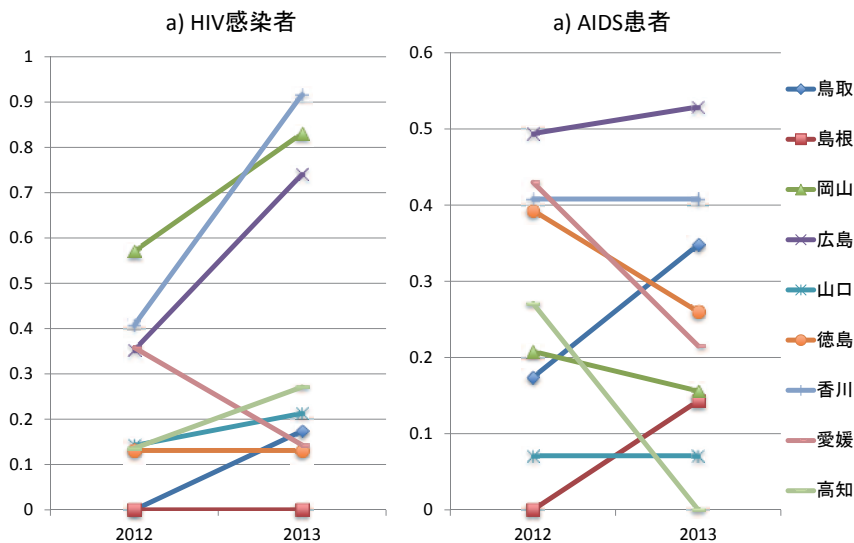


図2 人口10万人対で見た過去2年間のHIV/AIDS新規報告比率の変化

表1 2年間における医師向け研修会の参加施設と人数

県	所属施設	人数(合計)	診療科(専門科)
鳥取	鳥取県立中央病院	1	血液内科
島根	松江赤十字病院, 島根大学病院, 島根県立中央病院	5	血液内科, 呼吸器内科
岡山	岡山済生会病院	1	内科(膠原病)
広島	広島大学病院, 広島市民病院, 福山医療センター	8	血液内科, 泌尿器科, 感染症科, 内科(消化器)
山口	岩国医療センター, 下関市立豊田病院	2	内科, 小児科
徳島	—	0	—
香川	大樹会回生病院	2	初期研修医
愛媛	愛媛県立中央病院	1	感染症科
高知	—	0	—

表2 2年間における看護師向け研修会(初級者コース)の参加施設と人数

県	所属施設	人数(合計)
鳥取	鳥取大学, 米子医療センター	3
島根	島根大学	2
岡山	倉敷中央, 済生会岡山, 岡山医療センター, 川崎医科大学, 川崎医科大学附属川崎, 岡山労災	10
広島	県立広島, 呉医療センター, 広島大学, 広島市民, 福山医療センター	22
山口	関門医療センター, 山口大学, 県立医療センター	3
徳島	徳島大学	1
香川	香川大学, 四国こどもとおとなの医療センター, 三豊総合	3
愛媛	愛媛大学, 松山記念, 松山赤十字, 西条中央, 市立宇和島	6
高知	高知大学, 県立安芸, 高知医療センター, 国立高知	8

* 赤字は中核拠点病院

らあまねく参加が得られていた。また医師向け研修会の参加のない徳島、高知からの参加もあった。アドバンストコースの参加数は、2013年度が12人、2014年度が14人であった。しかし13年度の参加施設は4県7施設であったが、14年度は7県12施設に及んだ。

2011年度から開始した緩和ケア・訪問看護・施設の看護師向け研修会は、2013年度は広島県福山市で、2014年度は広島市で開催し、それぞれ54人、52人の参加があった。2年とも広島県内の開催のため、広島県内の参加者が大多数であった。各年度の参加者の勤務先（所属の区分）は、2013年度は施設（老健、老人ホーム、障害者施設など）29人、訪問看護ステーション7人、緩和ケア病棟19人であり、2014年度は、施設16人、訪問看護ステーション14人、緩和ケア病棟23人であった。

2010年から開始した四国地方のエイズ拠点病院の診療スタッフのための研修会は、2013年度9月に松山で開催し、4年間で全県を廻った。それまでの4年間は1泊2日で、講演とロールプレイ、そして今後の診療につなげるための会議等を行っていたが、2014年度からは半日の研修とし、また対象をエイズ拠点病院にしぼらず、地域の開業医等にも広く呼びかけることとし、名称も「四国地方の診療医師及びスタッフのためのHIV講習会」とした。香川県高松市で行い22人の参加があり、拠点病院のみならず地元の開業医や保健所の医師の参加もあった。

心理職の研修会は年3回行った。2013年度は福祉職・薬剤師合同の研修会（広島県臨床心理士会と共催）を2回、心理職のみの初心者コースを1回行った。2014年度には、福祉職・薬剤師合同の研修会を1回にして、別に“上級者コース”を立ち上げた。また福祉職（MSW）向け研修会は、前述の合同と

は別に例年1日目が会議、2日目が研修という2部構成で年1回行っている。2012年より、拠点病院所属のMSWだけでなく、地域の一般病院や介護施設にも参加を呼びかけている。2013年度は1日で終了するプログラムを企画したが、やはり議論・討論には時間がたりない、との声を受けて、2014年度には再び1泊2日とした。

薬剤師向け研修会は、2013年度まで年2回行ってきたが、参加者が固定されてきたこと、1泊2日を2回行うためのスタッフの労力の疲弊などが目立ち、2014年度から1回のみでの研修会とした。参加応募数は年1回になっても微増に留まった。

その他、歯科医師向け研修会や全職種対象の研修会を行っているが、それぞれ広島県歯科医師会、広島県臨床心理士会との共催のため、ここでは報告を省略する。

【3】 ホームページなどの情報提供発行・配布した小冊子について

ホームページのアクセス数はこの2年で（2015年2月22日現在）59,077であった。2013年度でリサーチレジデントの杉原医師が退職したため、2011年から続いていた“Dr.杉原のジャーナルクラブ”は終了となった。その後あらたなアップデートはない。しかし、1年半以上休止していたスタッフブログを再開した。

2012年度に行ったアンケート調査をもとに、新たな小冊子作りを開始した。2013年度には「血友病まね～じめんと」、2014年度は「これなら大丈夫、HIV感染症プライマリケア診療ガイド」と「知らないままでいいの？ ケツユウビョウのあれこれ」を作成した【図3】。



図3

D. 考察

2013年9月末時点のブロック内のHIV/AIDS累積報告数は906人となり、特に広島では300人を超えた。しかし、HIV感染者の新規報告例は年々増加しているものの、エイズ患者の新規報告例は2013年には僅かに減少した。例年、この地域はエイズ発病で報告されるケースが目立つ、と報告しているが、ようやく早期発見に向けた努力の効果が現れてきたと思われる。しかし、山陰や四国の報告例の少ない県では、まだ不十分と言える。取り組みの一環として各職種別研修会がある。医師向け研修会では徳島、高知の2県からの参加が2年間0であった。しかし、これは開催場所が広島市内の広島大学病院に固定されており、距離的な問題があつて致し方ない部分もある。さらに人口の少ない地域は医師不足のために多忙で、専門以外の診療もせざるを得ず、興味があつても参加できない事情もあるかも知れない。今後高齢化社会に伴い、医師不足はこのような状況は今後も続く可能性がある。次世代のエイズ診療を担う若手医師を育てるために、彼らに興味のある研修内容にして参加希望を高めることも大事だが、現在早期発見の役割を担い、かつ病診連携等で診療にあたっている開業医や非専門医にも、エイズ診療を理解してもらう必要もある。2013年度から試験的に参加対象者を「拠点病院勤務の若手医師」に限定せず、広く応募をかけるようになった。そのため初年度は過去最高の参加者となった。2年目である2014年度は参加者が減少したが、これは診療のみならず学会・研究会が多く開催される11月開催であつたことが関係していると思われる。次年度は夏開催を考慮すると共に、内容も興味あるものにしていきたい。

看護師の研修会において、2014年度よりアドバンストコースは本科学研究費によって行うこととした。そのため「広島大学病院認定」の研修会からは外れたが、煩雑な手続等が省略できた。しかし、日本エイズ学会の“認定看護師”の取得ポイントは継続できたので、今後も研修を受けることで“認定看護師”の取得ができることをアピールしていく必要がある。

情報発信において、ホームページを2009年に刷新した。その後のアクセス数は160,823で、この分野では高アクセス数と考えられる。今後も「飽きられない」ように内容を充実させていくとともに、スマートフォンやpadの普及に伴い、それらの端末に

対応するものを次年度に新規作成予定である。

2013年度には、日本エイズ学会学術集会などで人気の「エイズ関連用語集」や、「HIV検査について」「HIV検査の勧め方、告知の仕方」の小冊子をアップデートした。さらに2014年度は、後者2つの小冊子と「飲み合わせチェック！抗HIV薬の相互作用」をアップデートした。いずれもニーズが高いようで、今後も新しい情報を取り入れて継続発行していきたい。

患者の延命に伴う高齢化に伴い、臨床現場でもかかりつけ医への逆紹介や、介護施設へ入所が必要な患者がでてきている。こういった非専門施設のスタッフに対する教育・研修を行ってきたが、さらに知識を習得し、意識を高めてもらうために、何らかの小冊子が参考書代わりに必要ではないかと考えるに至った。「これなら大丈夫、HIV感染症プライマリケア診療ガイド」(ver.1)と「知らないままでいいの？ ケツユウビョウのあれこれ」は、そのことを強く意識した小冊子であり、全国の拠点病院のみならず、地域の開業医、介護施設等広く配布して周知を図りたい。内容的なまだまだ不十分なものであるため、我々も症例の経験を蓄積してさらにブラッシュアップさせたものを提供していきたい。今後はさらに拠点病院の枠に留まらず、高齢化する患者のケアのために、非拠点病院やクリニック、在宅ケア、介護にまで目を向けてきめ細かい情報提供と研修の機会を与えていき、ひいては、どの病院、施設でも標準的なケアを患者が受けられるように、努力していきたい。

E. 健康危険情報

特になし

F. 研究発表

1. 発表論文

- 1) Takeshi Nishijima, Hiroyuki Gatanaga, Takuro Shimbo, Hirokazu Komatsu, Tomoyuki Endo, Masahide Horiba, Michiko Koga, Toshio Naito, Ichiro Itoda, Masanori Tei, Teruhisa Fujii, Kiyonori Takada, Masahiro Yamamoto, Toshikazu Miyakawa, Yoshinari Tanabe, Hiroaki Mitsuya, Shinichi Oka. Switching Tenofovir/ Emtricitabine plus Lopinavir/r to Raltegravir plus Darunavir/r in Patients with Suppressed Viral Load Did Not Result in Improvement of Renal Function but Could

Sustain Viral Suppression: A Randomized Multicenter Trial, PLoS One 8(8): e73639, 2013,

- 2) Nishijima T, Takano M, Ishisaka M, Komatsu H, Gatanaga H, Kikuchi Y, Endo T, Horiba M, Kaneda S, Uchiyumi H, Koibuchi T, Naito T, Yoshida M, Tachikawa N, Ueda M, Yokomaku Y, Fujii T, Higasa S, Takada K, Yamamoto M, Matsushita S, Tateyama M, Tanabe Y, Mitsuya H, Oka S. Abacavir/lamivudine versus tenofovir/emtricitabine with atazanavir/ ritonavir for treatment-naive Japanese patients with HIV-1 infection: a randomized multicenter trial. Int Med 52(7):735-44, 2013.
- ## 2. 学会発表
- 1) 藤井輝久（代理：高田 昇），喜花伸子，鍵浦文子：HIV陽性。そのときあなたは どうしますか～HIVチーム医療の現状とこれからの課題，第62回日本医学検査学会，2013年5月19日，高松
 - 2) 齊藤誠司，鍵浦文子，藤井健司，藤田啓子，畝井浩子，木平健治，藤井輝久，高田昇，大毛宏喜，一戸辰夫：急性C型肝炎の発症を捉え，早期に治療導入に到ったHIV感染例，第87回日本感染症学会学術講演会，2013年6月5日-6日，横浜
 - 3) 齊藤誠司，石原麻彩，鍵浦文子，喜花伸子，藤井健司，藤田啓子，畝井浩子，山崎尚也，藤井輝久，高田昇：中国四国ブロックにおけるエイズ診療拠点病院医師向け研修会に対する評価とそのあり方について，第27回エイズ学会学術集会，2013年11月20日-22日，熊本
 - 4) 西島健，湯永博之，遠藤知之，堀場昌英，古賀道子，内藤俊夫，井戸田一郎，鄭 真徳，藤井輝久，高田清式，山本政弘，宮川寿一，田邊嘉也，満屋裕明，岡 慎一：テノホビル/エムトリシタピン・ロピナビル/リトナビル内服例を現行レジメンとラルテグラビル・ダルナビル/リトナビルに無作為割付する多施設共同臨床試験，第27回エイズ学会学術集会，2013年11月20日-22日，熊本
 - 5) 重見麗，服部純子，蜂谷敦子，湯永博之，渡邊大，長島真美，貞升健志，近藤真規子，南留美，吉田繁，森 治代，内田和江，椎野禎一郎，加藤真吾，千葉仁志，伊藤俊広，佐藤武幸，上田敦久，石ヶ坪良明，古賀一郎，太田康男，山元泰之，福武勝幸，古賀道子，岩本愛吉，西澤雅子，岡 慎一，松田昌和，林田庸総，横幕能行，上田幹夫，大家正義，田邊嘉也，白阪琢磨，小島洋子，藤井輝久，高田昇，高田清式，山本政弘，松下修三，藤田次郎，健山正男，杉浦 互：新規HIV/AIDS診断症例における薬剤耐性HIVの動向，第27回エイズ学会学術集会，2013年11月20日-22日，熊本
 - 6) 齊藤誠司，山崎尚也，藤井輝久，鍵浦文子，藤井健司，藤田啓子，畝井浩子，大毛宏喜：診断の遅れからエイズ指標疾患を発症し、輸血前感染症検査にて診断に到ったHIV/AIDSの3症例。第88回日本感染症学会学術講演会。[感染症学会誌.2014;88:362]2014年6月18日-19日.博多
 - 7) 鍵浦文子，木下一枝，山崎尚也，齊藤誠司，藤井輝久，高田昇：広島大学病院に通院するHIV感染者の梅毒治療の現状。第88回日本感染症学会学術講演会。[感染症学会誌.2014;88:364]2014年6月18日-19日.博多
 - 8) 藤田啓子，藤井健司，畝井浩子，鍵浦文子，藤井輝久，齊藤誠司，山崎尚也，高田昇，木平健治：広島大学病院における抗HIV療法のレジメン変更状況～バックボーンについて～。第88回日本感染症学会学術講演会。[感染症学会誌.2014;88:365]2014年6月18日-19日.博多
 - 9) 藤井健司，藤井輝久：当院におけるスタリビルド配合錠使用例の報告。第24回日本医療薬学会年会。2014年9月27日-28日.名古屋
 - 10) 山崎尚也，齊藤誠司，藤井輝久：細菌性心外膜炎を発症し診断に至ったHIV感染例。第36回広島感染症研究会。2014年11月29日.広島
 - 11) 齊藤誠司，木下一枝，小川良子，喜花伸子，浅井いづみ，塚本弥生，藤井健司，藤田啓子，畝井浩子，山崎尚也，藤井輝久，高田昇：広島大学病院における中枢神経病変合併HIV感染者の現状と課題。第28回エイズ学会学術集会。[日本エイズ学会誌.2014;16(4):449] 2014年12月3日-5日.大阪
 - 12) 岡崎玲子，蜂谷敦子，服部純子，湯永博之，渡邊大，長島真美，貞升健志，近藤真規子，南留美，吉田繁，森 治代，内田和江，椎野禎一郎，加藤真吾，千葉仁志，伊藤俊広，佐藤武幸，上田敦久，石ヶ坪良明，古賀一郎，太田康男，山元泰之，福武勝幸，古賀道子，岩本愛吉，西澤雅子，岡 慎一，岩谷靖雅，松田昌和，重見麗，保坂真澄，林田庸総，横幕能行，上田幹夫，大家正義，田邊嘉也，白阪琢磨，小島洋子，藤井輝久，高田昇，高田清式，山本政弘，松下修三，藤田次郎，健山正男，杉浦 互：新規HIV/AIDS診断症例における薬剤耐性HIVの動向。第28回エイズ学会学術集会。[日本エイズ学会誌.2014;16(4):453] 2014年12月3日-5日.大阪
 - 13) 藤井輝久，齊藤誠司，山崎尚也，小川良子，木下一枝，藤井健司，藤田啓子，畝井浩子，高田昇：ART導入例におけるレジメンとウイルス量及びCD4数の変化の関係。第28回エイズ学会学術集会。[日本エイズ学会誌.2014;16(4):465] 2014年12月3日-5日.大阪

- 14) 山崎尚也、木下一枝、小川良子、喜花伸子、浅井いづみ、塚本弥生、藤井健司、藤田啓子、畝井浩子、齊藤誠司、藤井輝久、高田昇：広島大学病院におけるHIV感染者の骨代謝異常の現状と原因の検討.第28回エイズ学会学術集会.[日本エイズ学会誌.2014;16(4):469] 2014年12月3日-5

G. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし